

「パンデミックと社会に関する連絡会議」の設置の背景と趣旨

COVID-19を巡る状況

- ワクチン接種が進む中、感染克服に期待が集まっているが、未だに終息の目処は立っていない
- 一方で、COVID-19の世界的流行は、**現代社会が内包する問題点とポテンシャルを顕在化**
- 特に、我が国においては、社会、学術の様々な問題点が露呈

日本学術会議では、多くの委員会、分科会がCOVID-19に関して議論し、情報発信してきた

- **大規模感染症予防・制圧体制検討分科会**の設置（2020年2月）
- 緊急課題を集中して検討するため**コロナ対応ワーキンググループ**を設置（2021年1月）
- 声明（2）、会長談話（1）、提言（2）、Gサイエンス共同声明（2）、サイエンス20共同声明（1）
- 日本学術会議内での審議状況の共有や情報発信の促進（学術フォーラムのシリーズ化、「学術の動向」特集号の企画、**COVID-19特設ページ**に情報を集約等）を実施
- **学術フォーラム、公開シンポジウム**など2020年6月～2021年7月までに31回開催

学術の諸科学の専門知を効果的に連携し、総合的、俯瞰的な検討を進めることは日本学術会議の役割

- 現在のCOVID-19感染への対応に加えて、中長期的な視点で**with/postコロナにおける医療体制や社会の在り方について議論**を深め、政府や社会に貢献する
- その際、人文・社会科学、生命科学、理学・工学の各分野の科学者による**横断的な審議**が必要
- 緊急時だけでなく平時における社会や学術の問題点を点検・議論し、パンデミックに耐えられるレジリエントな社会制度を構築するための検討が不可欠

